

2021年度WAM助成事業
プレイスセンターにじっこ活動報告書

親も子も地域も育つ

プレイスセンター方式 子育て支援事業

2021.4~2022.3



にじっこ紹介動画



認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ぶれいおん・とかち



運営団体

認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ぶれいおん・とかち



「ぶれいおん (play on)」には「もっと遊ぼう！」「みんなで遊ぼう！」という想いが込められています。

「遊ぶ・体験する」「共感する」「つながる」の3つを柱に、ぶれいおん・とかち正会員が企画・運営をし、地域の子育ち親育ち拠点として幅広い活動を行っています。

子どもから大人までの異年齢・多世代での「あそび」を中心とした活動を通じて、豊かな子どもの世界、子どもの育ちを温かく見守る地域社会をめざしています。

2020年12月（一財）非営利組織評価センターにより
「グッドガバナンス認証」を北海道で初めて取得
令和2年度 子どもと家族・若者応援団表彰
「子育て・家族支援部門」内閣府特命担当大臣表彰受賞

| | |
|-------|-------------------------------|
| 1973年 | 「十勝おやこ劇場」として創立 |
| 1988年 | 「帯広西おやこ劇場」に分割 |
| 2006年 | 「NPO法人子どもと文化のひろば ぶれいおん・とかち」設立 |
| 2018年 | 「認定NPO法人」認可取得 |

事業内容

| | | | | |
|----------|----------|---------|---------------|---------|
| 芸術文化体験事業 | 生活文化体験事業 | 子育て支援事業 | 地域ネットワークづくり事業 | 広報誌発行事業 |
|----------|----------|---------|---------------|---------|

目次

| | |
|-----------------|------|
| 1.はじめに | 2 |
| 2.事業概要 | 2 |
| 3.事業目的・内容・実績・成果 | 3-16 |
| 柱1：あそびセッション | 3-4 |
| 柱2：学び合い | 5-8 |
| 柱3：子育て講座 | 9-10 |
| 柱4：子育て相談会 | 11 |
| 柱5：森のにじっこ | 12 |
| 柱6：スタッフ育成事業 | 13 |
| 柱7：社会啓発活動 広報事業 | 14 |
| 柱8：地域の子育て環境調査 | 15 |
| 柱9：預かり合い | 15 |
| その他：自主運営 | 16 |
| 4.まとめ | 17 |
| 5.参考資料 | 18 |



1.はじめに

2年に及ぶコロナ禍で、人と人との接触が難しくなったことで、妊娠・出産・子育てがますます孤立化し、親の不安感や困り感は増大しています。

ヒトは進化の過程で、群れの中で共同で子育てをしながら、親としても成長できる“共同養育”的スタイルを獲得しました。“親だけでは子育ては難しい”、種としてのそんな宿命に気付いただけでも、ほっと安堵しませんか？自分一人じゃなくて、子育ての仲間がいることで安心感が生まれます。ぶれいおんでは、あそびやさまざまな体験を通じて、親も子も多様なつながりの中で支え合う関係性を大切に育んでいます。“プレイセンターにじっこ”で出会い、乳幼児期を過ぎてもずっとつながりあえる仲間。自分の子どもだけじゃなく、よその子の成長も見守り合える関係性が生まれることで、子育てがしやすいまちづくりにもつながっていきます。

子どもたちは未来を創る人。子育てが、周囲のみんなで未来に夢を描けるような楽しい共同作業になるように、多世代の緩やかなつながりをつくっています。

子どもと一緒に親も育ちあえること、親子の成長をあたたかく見守り合えるまなざしを増やすこと。ここで子育てができる良かったと思えるような場づくりを目指して、プレイセンターにじっこに取り組んでいます。

ママと子どもたちの育ち合いの日々を、どうぞご覧になってください。



認定NPO法人子どもと文化のひろば
ぶれいおん・とかち
理事長 今村江穂

2.事業概要

プレイセンターは、“家族が一緒に成長する”という理念のもと、ニュージーランドで60年以上の歴史を持つ「親たちによる幼児教育の活動」。子どもも親も楽しみながら共に成長していくことをを目指し、0歳から就学前までの子どもに「自分で選ぶあそび」を、親に「親のための学習」を提供し、子どもと親の両方を支援する。

《あそび》

“あそび”という言葉を、プレイセンターでは子どものあらゆる自発的な活動を指す言葉として使っている。子どもはあそびを通じて、感情や想像力を発達させ、言葉を覚え、友達を作り、世界について学ぶ。プレイセンターでは子ども自身がやりたい時にやりたいあそびを選ぶことができる。

《親のための学習》

親がプレイセンターの理念を学び、子どもたちのあそびをサポートするために必要な知識や方法を身につける。誰もがみんなに役立つ何かを持っているという考えに基づき、お互いの経験や感情を持ちよる、参加・協力・実践型の学び合い。

《プレイセンターの運営》

プレイセンターは親たちによって運営されるが、無理なく楽しく進められるよう、子育ち親育ちに関する専門知識を学んだスーパーバイザーがサポートする。参加するすべての人が協力し合い、みんなで場づくりに関わることを目指している。

プレイセンターにじっこ

日時：毎週水・金曜日10:00～13:00

会場：ぶれいおん・とかち

帯広の森・はぐくーむ、他

対象：未就学児の親子（会員制）

会費：月1,100円

※非課税世帯は半額

※ぶれいおん・とかちにも同時入会

#プレイセンターにじっこ



3.事業目的・内容・実績・成果など

柱1：遊びセッション

目的

親が子どもの成長に不可欠な「遊び」への理解を深め、子どもへの主体的な遊びを見守る。子どもたちは、信頼できる大人たちと豊かな遊びを通して成長する。

プロアーティストによる芸術文化体験により豊かな感性を育む。

内容

スーパーバイザー支援の下、親が子どもの遊び環境を整え、遊びを見守り、終了後には活動のふり返りを行う。

芸術文化体験として人形劇公演を4/24に実施。

実績

場所 ぶれいおん・とかち
JICAの屋外ひろば
みどりと花のセンター周辺
サケのふる里公園

実施回数 53回
参加人数 延べ 961人



成果

4～5月に体験会を3回開いたところ新しい親子が多数入会してくれた。新旧メンバーを交えて、『あそびコーナーを作り、大人の見守りスタンスを共有した上で、子どもがどのように遊ぶか観察。終了後に気づいたことを分かち合う』試みをしたところ、「親としてはもっといろんなおもちゃで遊んで欲しいと思ってしまうけど、今日は子どもが好きなことをするのを見守りました。」「支援センターに行くと帰宅後に親が疲れちゃうこともあるけど、ここは親の間でダメと言わない等の共通のルールが共有されているので楽！ともい！」等、新しいメンバーにもプレイセンターでのあそびについて理解してもらうことができた。今年度も新型コロナウィルスの影響を多分に受け、通常の室内での活動が困難な時期もあったが、メンバーと話し合い、「子どもにとっても親にとってもこの活動は必要」であることを確認し、活動を休止することなく継続した。

緊急事態宣言中は、屋外にあそびの場を移して実施した。森では、小さな歩幅で初めて森の奥まで歩いて冒険したり、『森×音』企画として楽器を自由に鳴らして歌ったり踊ったり。子どもも大人も新しい体験をすることができた。

学び合いの時間に「プレイセンターでのあそび」について話し合ったことで、「家ではできないあそびをしたい」「感触あそびをさせてやりたい」といった声が上がり、「絵の具あそび」「墨あそび」「寒天あそび」等でダイナミックに遊ぶことができた。

仲間と一緒に遊ぶ体験を重ねることで、親たちからは「複数の子どもがいると、一人一人興味関心や関わり方が違っていて面白い。いつどんなあそびがヒットするか分からないから、様々な場を作りたい」「ただ見ていることもあそびだと思った」等の感想があり、あそびについて広い視野で柔らかく考えられるようになってきている。

エピソード

(Kちゃんより)

普段は幼稚園に通っている娘（5才）を連れて参加した日、Mちゃん（3才）と物を取り合い、最後まで諦めずに奪い取る、という姿を初めて見ました。にじっこだから、Mちゃんのママと目配せして最後まで口と手を出さずに見守ることにしました。いつもならすぐ泣いて大人をあてにする娘が、諦めずに取り合ったのです。私が代わりに謝ったり、娘に謝らせたりするのは違うなと思ったので「一人で使いたかったんだね。Mちゃんも使いたかったよね」と二人の気持ちに共感し、代弁することに徹しました。色々言いたくなつたけど

娘を信じようという気持ちで我慢。年下の子から奪い取って泣かせて一人で遊んでも居心地が悪いこと…彼女なりに感じていたのでしょう。帰りに自分からMちゃんに「Mちゃん、バイバイ！」と声をかけていました。これが彼女の精一杯の「ごめんね、また遊ぼうね」の気持ちの伝え方だと理解できたので、嬉しくて心で涙。娘を信じてよかったです。いつもなら、年上なんだからとか色々言っては、勝手に終わらせてしまってるなど自省。一緒に見守ってくれたみなさんに感謝です。やっぱりいいな～にじっこ！



柱2:学び合い

目的

親の育児スキルやコミュニケーションスキルを習得する。

内容

子育て、自主運営、コミュニケーションに関する知識や技術を、日本プレイセンター協会のテキストなどを用いてスーパーバイザーの支援の下、対話形式で親同士が学び合う。2グループに分かれて子どもたちを託児し合う形式で実施。

実績

| 日時 | 内容 | 場所 | 参加組・人数 |
|-----------|-----------------------|-----------|------------|
| 4/14 (水) | 実習①:子どもの観察学習 | ぶれいおん・とかち | 9組17人 |
| 6/23 (水) | 実習②:遊びのワークショップ | ぶれいおん・とかち | 3組6人 |
| 7/14 (水) | プレイセンターの理念 | ぶれいおん・とかち | 6組12人 |
| 8/25 (水) | 日本におけるプレイセンター(テキスト) | ぶれいおん・とかち | 9組18人 |
| 9/22 (水) | DVD「ママたちが非常事態」感想報告会 | ぶれいおん・とかち | 9組17人 |
| 10/1 (金) | にじっこ総会 | 南豪寺 | 13組24人 |
| 10/20 (水) | プレイセンターのあそび(テキスト) | ぶれいおん・とかち | 8組16人 |
| 11/17 (水) | 子どもの権利について | ぶれいおん・とかち | 10組22人 |
| 12/17 (水) | わらべうたと絵本を楽しもう | ぶれいおん・とかち | 12組24人 |
| 1/19 (水) | 子どもの安全と衛生(テキスト) | ぶれいおん・とかち | 7組15人 |
| 2/25 (金) | 実習③:ラーニングストーリーを書く | ぶれいおん・とかち | 8組16人 |
| 3/18 (金) | センター運営に必要な実践的技術(テキスト) | ぶれいおん・とかち | 9組18人(見込み) |
| 合計 | | | 12回 延べ205人 |



成果

4～5月からメンバーが一新されたこともあり、テキストで学ぶ順番を工夫した他、プレイセンターに関わる親には是非学んで欲しい「子どもの権利」や、赤ちゃん連れのお母さんも参加しやすいように「わらべうた」の回も設けた。学び合い以外の普段の活動では話題に上らないようなテーマも扱っているので「それぞれの親の意見が聞けてとても参考になり面白い」「考えるきっかけをもらえる」「何に対しても様々な感じ方があることを知り、自分の中の思考の枠が外れていく」等の感想があった。また3～5人の少人数で語り合うので「お互いの距離が深まり、より親しく接することができ安心感が得られる」という声もあつ

エピソード

(Kちゃんより)

（以下、15歳）
にじっここの学び合いの時が、息子にとっては初めての託児経験になりました。身近な人たちの中で、無理なく離れる経験ができたこと、またその後の託児でも、その度に息子の成長を感じられたことがよかったです。

た。2グループに分かれ、お互いの子を託児し合うスタイルにしていることで、「預ける・預かる」の体験を通して、『みんなで子育て』する意識やスキルを身に着ける機会にもなっている。10月実施のにじっこ総会では、学び合いになかなか参加できないメンバーもいるため、改めて「プレイセンターとは?」という説明を行い、一人一人がにじっここの活動に参加してどう感じているか、想いを語り聴き合った。また、年間計画や、次年度からチャレンジする「預かり合いプロジェクト」についても話し合った。



プレイセンターへようこそ

Welcome to Playcentre

NPO法人 日本フレイセンター協会

『使用しているテキスト』
プレイセンターの理念、あそび、安全と衛生、運営
に必要な実践的技術、リーダーシップについて等、
ディスカッション形式で学べる内容となっている。
作成：NPO法人日本プレイセンター協会





親のまなびレポート



実施年月日： 2021/9/22

担当： まりこ

テーマ： DVD「ママたちが非常事態！」を見て



■ 子育てがつらいのはお母さん、あなたのおせいではないのです。

ニッポンの母親たちが育児をこれまで今まで孤独でつらいと感じるのはなぜよ？ その謎を、脳科学、生理学、進化論など、最新の科学で解き明かしていきます。

Q 子育てが孤独で耐えられない！不安(ばかり)暮してしまう！どうして？

A 「子育てが孤立を感じる」ニッポンのママは7割。また「産後うつ」は一般的なうつの5倍以上。その鍵を握るのは、女性ホルモンの1つ「エストロゲン」。胎児を見守るエストロゲンは、女性から出産にかけて分泌量が増えますが、出産を境に急減します。

すると母親の脳では、神経細胞の働きが変化し、不安や孤独を感じやすくなるのです。なぜそんな一見、迷惑な仕組みが体に備わっているのか？ 原因を考えられるのが「人類が進化の過程で確立した『みんなで協力して子育てる』＝「共同養育」という独自のスタイルです。人間の母親たちは、今なお、本能的に、「仲間と共同養育したい」という欲求を感じながら、核家族化が進む現代環境ではそれがかなわない。その大きな溝が「ママ友」とつながりたい欲求や、育児中の強い不安、孤独感を生み出していると考えられます。――などなど。

● DVDを見た人たちの感想

・科学的になぜ？を検証しているのがおもしろい。

（「共同養育」について）

- ・元々遺伝子レベルで「共同養育」が組み込まれていたんだ!! それが大前提なんだ!!!
- ・アフリカのある部族の村で、みんなでお互いの子を育てる姿を見て驚いた。わが子を預けて出かけたり、よその子におっぱいまであげたり…。日本ではそこまでできないかもしれない。
- ・1人で抱えこむ自信がないので、スッキリした。

（女の脳と男の脳の違い）

- ・赤ちゃんの夜泣きに全く反応しない、自覚がない夫は「仕事なめただんだ」とかいた。
- ・たとえば、女小学生と一緒に歩いているスキルを使ってない、と思った。役割を持て生まれてきたことを誇りに思っていた。

（「何が土地柄かと思った」というママの声）

- ・自分は母親失格だなあ～、みんなうまくやっているし、愛情もかけられて3人に手がけられても不器用なのがなあ～…と思ってたけど、みんなそうなんだ！と思えた。

（一緒に見た夫の反応）

- ・赤ちゃんの時、てこなに大変だったんだなーことを思い出してくれた。
- ・（以前から結構育児に手を出さないパパ）オレ、子どもに人見知りされてうショクだなーと。
- ・赤ちゃんに触れることで、パパもオキシトシン（幸せホルモン）が出る、と聞いて、その後は寝かしつけてまで1人でしてくれた！

（一緒に見た子どもの反応）

- ・2歳の娘が見たいというので2人で一緒に見た。赤ちゃんのお世話のシーンでは、自分が“お人形を持っておせ話をしたりするのを見て、この年でも母性が備わってるのかな!?”とひっくり。

● そこからこんな話にも展開…

「子どもは集団で育てるのが大事」、ではなぜか？ ではなぜそれがかからずかにならぬのか？

- ・世代間ギャップによる遠慮、生活環境や背景が多様化していく、共感し合える人と出会うのが難しい。
- ・リスクを避ける社会になっている。他人との預け合いは、何かあったら…を追及される。それで工場が金を奪って後押すサービスを、ここで「どちらばかりが犠牲してきた」。でもお金がいいと使えていいし、横のつながりには非常に多い。
- ・「預ける」ことへの壁はなんだ？ … 身近な人の反対 や 自分の中の心理的ハードル。

（どうすればいい？）

（生物学的にいって病気とか）に付れば東京める… そこまで真張るのツライ

※昔からの親友にいたら頼める。

※家族キャンプをし、寝食共にし、親子ぐるみで知り合う。

※夫の理解を得る。→そのためには、パパをはじめに参加させる工夫を!!

※いいで預かり合いができる所、始まるよ!!

毎回の内容をスーパーバイザーが手書きでまとめ、「学び合い」に参加できなかったメンバーとも共有しています。

親のまなびレポート

実施年月日： 2022/11/19

担当：まりこ

テーマ： 子どもの安全と衛生 (text p.13-14)

体験談のシェア

1. これまでに経験した子どものケガ・事故との時の対処法は？
 ★再発防止のためにしていること（あれは）

- アパートの玄関のドアを開けようと手をかけたところ、ドアが開いていて段差から落ちた。
 シャツを貰ひ泣き止んだので大丈夫と思って翌日幼稚園に行かせたら、手首が痛いといつて病院へ。骨折していた。
 ★ドアの開け方を教えた。大人がドアを開ければなしにしないよう気をつけようになった。
- 離乳食を進めると大丈夫だろ？と思いつ夜卵を与えたが、夜通しかゆからて（目も）泣いた。翌朝病院へ行き、軽度の卵アレルギーと診断される。
 ★他の注意点：必要な食品（そば等）は事前に検査を受けてから与えるようにした。
- お父さんかごはんを食べさせようと、子どもの手でぐいと引っぱり上げた時、子どもが逆方向に手を動かして二の三。ひじの関節が外れた。接骨院に行き治してもらった（小児科でもOK）
 ★食べる前に手をよくしておくようにしている。
- お風呂上がりに母が髪を乾かしている間に、（人で背筋を昇り、コロコロと転がり落ちた。声をかけて背中をトントンしてやると泣き止んだ）。（病院へは行かず）
- 夕飯時、子どもが土鍋のフタを開けたからで、ミトンをはめてやらせてやったところ…蒸氣のある穴のそばに手をやりかけた。夜間当番医に電話相談すると、「子どものやけどは小さい範囲でも注意しておがいい」と言われたので病院へ行き軟膏をもらった。
 ★遊びの時も、この遊びで危険なことは何がない？と考えるようにになった。
- 家の内で機嫌よく遊んでいたところ、ふと見ると牛に上りかけられていた！
 逃げを察して牛も「牛」の原因は言葉…。小児科→形成外科と回りました。皮膚外に出てしまつて取れないと言われ、夜、子供寝る間に自分で針とピンセットを使って牛を取った。

夜間の電話相談は
#8000へ

課題

2. これまでの環境で気になっていることがあります？

- ①座布団の置き場所…上に集めて車で倒したら角にぶつかってケガしそう。
- ②卓球台・電子ピアノのある狭い空間（入り口）と危ない
 ↳ 7才でチを挟まれたこともあります。
- ③ホワイトボードの脚に昇るので車で倒して倒す。
- ④避難訓練、一度もしたことがないからやめておきたいよね。
- ⑤クーラーバッグの水を飲むまで心配。
 ↳ 出しておく数を5つと決め、使用前後で大人が管理しよう！といつて。万一杯がこぼれても安全な事をです。
- ⑥階段のガードが設置されていない時がある→常設式のを買おう！
- ①～④については、引き続きみんなで考えていましょう！！

皆の話をきいて
 やりとり自分の危険を
 察知する意識は低い
 のだとすると再認識！
 自分の子の安全を考えてみられて
 いるのかどうか？
 これまでの間に小さな子の
 安全も考えて環境を整えて
 あげてないと思いました。

柱3:子育て講座

目的

親を対象に、専門的な育児スキルを習得する。

内容

子育てに関する専門家を招き講演会を実施。ぶれいおん・とかち会員などの協力を得て託児を設置。

実績

| 日時 | 内容 | 場所 | 参加組・人数 |
|---------|--|-----------------------|------------------------|
| 9/3(金) | 乳幼児とメディア 講師：中谷通恵氏 (子どもとメディア北海道) | ぶれいおん・とかち | 12組21人 |
| 12/8(金) | 救命救急講座 講師：佐藤悦弘氏 (帯広ライフサポート協会) | 東芽室コミュニティセンター | 14組28人 |
| 1/14(金) | お絵かきの関わり方 講師：高橋由紀雄氏 (帯広大谷短期大学) | 東芽室コミュニティセンター | 18組47人 |
| 1/26(水) | 知ってる？あそびがゼッタイ必要なわけ 講師：西野博之氏 (認定NPO法人 フリースペースたまりば理事長) ※にじっこ報告会も同時開催 | とかちプラザ (オンライン同時開催) | 75名 ※会場19人/オンライン56人 |
| 1/28(金) | 西野博之氏講演会アーカイブ視聴会 ※1/26に来られなかったメンバー対象 | ぶれいおん・とかち | 5組10人 |
| 合計 | | | 5回 延べ181人 |



「乳幼児とメディア」



「救命救急講座」

成果

【乳幼児とメディア】では、中谷さんの温かいお人柄に触れ、乳幼児期の子育てへのエールをいただいた。 「今、子どもとどう向き合うか、メディアとの関わりをどうするかによって小中高校生になった時、生き方が変わっていくのだと感じた」 「大人がスマホ依存になりがちな中、自分自身もどう使っていくかも一度見直したい。家庭でもルールを作ったり、夫とも話し合っていきたい」 等の感想が寄せられた。

【救命救急講座】は、「心臓マッサージをやる意味を初めて知れて良かった」「人命に関わる貴重な学びだった」「毎年受けたい」等の感想があつた。

【お絵かきの関わり方】では、「息子はお絵かきが好きじゃないと思い込んで、環境を整えていかなかった。お絵かきが自分の表現方法の一つになる

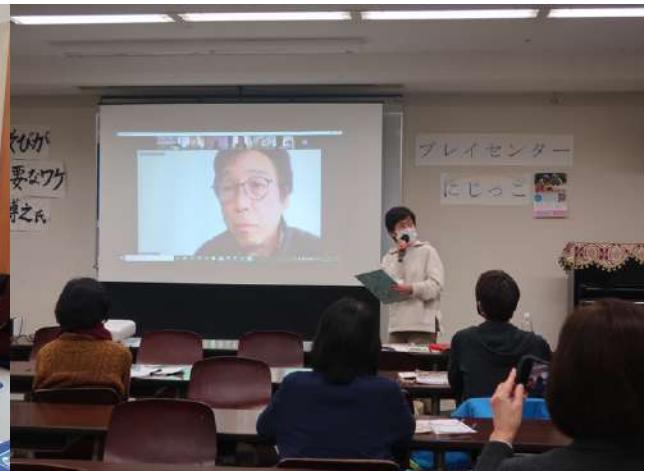
ように機会をつくっていきたい」等の感想が寄せられた。

【知ってる？あそびがゼッタイ必要なワケ】×

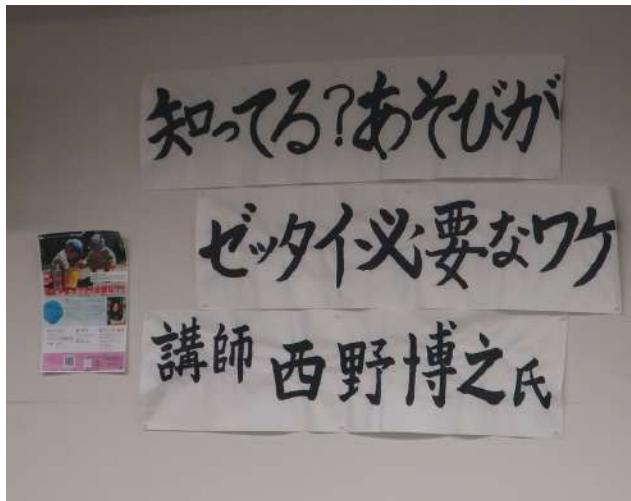
【にじっこ報告会】は、会場+オンラインのハイブリッド形式で実施し、関心のある全国の方が参加した。子どもの居場所づくりに30年以上関わっている西野さんの講演は、「生きてるだけすごいんだ」という子ども観を確認する時間となつた。参加者からは「正しい親でありたい、あそびが分からぬと思っていたけど、ただ子どもを愛してあげたいと思った。自分自身が幸せである努力をしていきたい」という感想があつた。にじっここの活動報告では「改めてにじっここの意味を再確認させてもらえた。応援したい」等の嬉しい反応があつた。



「お絵かきの関わり方」



司会や受付をにじっこメンバーが担いました。



題字はにじっこメンバーが書いてくれました。



「ゆる親でいい」メッセージをいただきました。

柱4:子育て相談会

目的

親のタイムリーで具体的な子育ての悩みや疑問を専門家の視点により解消する。

内容

幼児教育専門家（松岡公代氏）を招き、継続的な子育て相談会を実施。座談会形式で、親同士の情報共有を図る。2グループに分かれ、子どもたちは親同士で託児し合う。

実績

実施回数 4回
参加人数 延べ 66人

成果

新型コロナウィルス感染拡大で緊急事態宣言発令期間中は、屋外（近くの公園）を会場に実施。2022年1月～3月は新型コロナウィルス感染拡大を受け休止した。参加者からは「どんな相談でも受け止めてくれる大きな存在」「松岡先生の助言で安心するし、元気をもらえる」といった満足の声があった。また先生を囲んで複数人が一緒に相談し、アドバイスをもらうスタイルなので、「まわりの相談も自分のことのように考えることができた」「悩んでいるのは自分だけではないと思え、前向きになれる」と、自分以外の悩みに対しても学びの幅が広がったり、仲間同士で絆が深まるきっかけにもなっている。



柱5:森のにじっこ

協力：帯広の森・はぐくーむ

目的

子どもの成長に不可欠な外遊びを仲間と体験し、家庭でも日常的に外遊びを行うきっかけづくり。

屋外（森）におけるリラックス効果により、子育てのストレス発散。

内容

- ・帯広の森・はぐくーむと連携し、森の中で五感をフルに使って親子で遊ぶ。
- ・帯広大谷短期大学のゼミ学生参加（7/28）
- ・森のハロウィンパーティー（10/27）
- ・焼き芋（11/19）
- ・森のクリスマス（12/22）

実績

実施回数 24回

参加人数 延べ 349人

成果

計画通り月2回のペースで実施。「最初は怖がっていたうちの子も、今では森でたくさんの刺激を受けて楽しむようになってきた」「季節ごとに見え方も遊び方も変わるので遊び場にはとても良いところだと思う」「自然の中で発見をする子どもたちの姿を見るのが楽しみ」等、子どもと一緒に親も自然の中で遊ぶ楽しさを知り、森遊びが定着してきている。森遊びの取り組みを始めた当初は、「冬は寒いのでお休みしたい」「外遊びは準備が大変」と

いう声もあり実施が難しい面もあったが、これまで3年間の活動を積み重ね、自然の中であそぶ意義や楽しさが親に浸透してきていることが大きな成果だと考える。「ハロウィンパーティー」や「焼き芋」等、メンバーそれぞれの得意なことを活かしながら、やりたいことを自主的に企画・実現し、森の中でみんなで楽しむ良い機会となった。

エピソード

Mちゃん（3歳）

雪の積もった2月の森。Mちゃんは四つん這いになって雪原の向こう側まで行き、雪の解けたアスファルトの道を通って戻ってきたと思ったら、今度はスコップで雪を掘り、バケツに入れてアイスクリーム屋さんを始めた。ちょうどいい丸太を見つけ、そこがお店屋さんとなった。大人たちが注文したアイスクリームを作り、食べるのを満足そうに見ている。アイスの次はケーキ。バケツで作る大きなケーキは成功したり崩れて失敗したり。

お友達と一緒にぐちゃぐちゃにして食べたら、お誕生日のお祝いだと言ってプレゼントを探しに森の中へ行くことに。「どんなプレゼントがあるかなあ。」とワクワクして見守っていたら、釣り竿みたいな枝、ハートの穴が空いた葉っぱ、動物の足跡、つらら…等、たくさんプレゼントを見つけていた。



柱6：スタッフ育成事業

目的

親育ち子育ちを支援するスーパーバイザーやサポートスタッフのスキルアップ。

内容

子育てひろば全国連絡協議会や日本プレイセンター協会主催等の研修会に参加する。日本プレイセンター協会に属する全国のスーパーバイザーを対象に課題や事例を共有するオンライン交流会を主催する。（年1回）

実績

| 日時 | 内容 | 場所 | 参加人数 |
|--|--|-----------|-------------|
| 9/19(金) | ニュージーランド現地保育者に学ぶ家庭との協働・親のエンパワーメント 講師：谷島直樹氏、林浩子氏 主催：日本プレイセンター協会 ※オンライン | 自宅 | 2人 |
| 9/25(土) | 子育て応援ブック解説＆活用法研修 主催：NPO法人子育て応援かざぐるま ※オンライン | ぶれいおん・とかち | 5人 |
| 7/7(金) 9/1(水) 1/21(金) 3/30(水) | 全国スーパーバイザー交流会 主催：日本プレイセンター協会 ※オンライン | 自宅 | 計4回 延べ8人 |
| 12/23(土) | 聴き方のお稽古 主催：認定NPO法人 京都自死・自殺相談センターSotto | 自宅 | 1人 |
| 3/19(土) | デジタル絵本のインタラクティブ機能が幼児の物語理解に与える影響—紙絵本との比較を通して 講師：北海道大学 教育学院乳幼児発達論研究室 オウセイ氏 主催：子どもとメディア北海道 ※オンライン | 自宅 | 3名 |

成果

コロナ禍により対面式の講習会の機会はなかったものの、オンラインで遠方の講師から学ぶ講習会に参加したり、全国のプレイセンター所属スーパーバイザーとの交流会に参加することができた。

「ニュージーランド現地保育者に学ぶ家庭との協働・親のエンパワーメント」では、プレイセンターの本場での実践例を学び、あそびを充実させるためにセッション後のふり返り項目を見直す、子どもたち一人一人についてもっとよく知るためにラーニングストーリーを取り入れてみるなど、活動の改善・発展につなげることができた。

「子育て応援ブック解説＆活用法研修」では、川田学先生（北海道大学発達心理学、保育・幼児教

育専門）のご活動である『寺子屋』での実践報告から、にじっこの「学び合い」の意義や進め方についてヒントをいただいた。子育て応援ブックの意義について実感できたので、今後はその活用法についても考えていきたい。

また、今年度から2ヶ月に一度のペースで開催されることとなった「日本プレイセンター協会所属スーパーバイザー交流会」（ZOOM）に毎回参加する他、1月は主催者として、課題の設定、にじっこでの事例紹介、他のセンターでの現状や課題を共有する場を提供し、参加者からも好評を得た。

柱7:社会啓発活動 広報事業

目的

子育て中の親や地域、行政に対してプレイセンター事業を広く周知し、参加を呼びかけ、地域社会全体の子育て環境を改善する。

内容

- ・「リーフレット」作成配布（5000部）
- ・「みんなで子育て」をテーマに広報誌「楽しく子育てマガジン コノコト」作成配布（4000部）
- ・PR動画作成
- ・報告会（【知ってる？あそびがゼッタイ必要なワケ】×【にじっこ報告会】として実施）

成果

【コノコト】編集部員に、にじっこメンバーから新たに3名加わってもらい、子育て中の母親のリアルな声を紙面に活かすことができた。子育て中の親を感じている孤独感、不安感が解消される一つの方法として、「地域のみんなで子育てをしよう」というプレイセンターの理念を伝えることができた。また紙面で紹介した「NHKスペシャルママたちが非常事態！？」の番組制作チームに「コノコト」を届けることができ、お礼のお手紙と番組関連書籍・DVDを贈呈いただくという嬉しい出来事があり、大変励みになった。



【PR動画】にじっこメンバー、スーパーバイザー、事務スタッフ、ふれいおん会員で制作チームを立ち上げ、にじっこが大切にしていることや地域にアピールしたいところ等を話し合って進めた。このプロセスも大変有意義であった。完成した動画は、西野博之氏講演会時に「にじっこ報告」として紹介した他、北海道保健福祉部子ども未来局子ども子育て支援課主催「子育て支援力アップセミナー」に事例発表者として登壇した際にも紹介することができた。主催者からも「参加する親の声がたくさん聞けて、活動の様子がよく伝わった」と大変好評であった。

プレイセンターにじっこPR動画



内容

- ・にじっこってどんなところ？
- ・にじっこメンバー座談会
- ・スーパーバイザーの役割

柱8:地域の子育て環境調査

協力：帯広大谷短期大学研究班
木のおもちゃ・のわボーネルンド帯広店

目的

十勝の子育ての実情や環境における課題、ニーズを整理し、今後の活動指針に生かす。当事業の評価。行政への提言のためのツールとする。

成果

帯広大谷短期大学と共同で取り組むことができ、今後につながる連携関係を築くことができた。調査の報告をまとめた報告書を3月に発行し

柱9:預かり合い

目的

「預ける・預かる」体験を通して「みんなで子育て」のスタイルを習得し、子育てを一人で抱え込まない意識を育む。

成果

新しい取り組みのため、まずは目的や必要性、運用方法等について10月の「にじっこ総会」で話し合い、トライ＆エラーの精神で取り組むことを確認した。12月からおよそ月に一度のペースで実施できている。子を預けたメンバーからは、「一人時間でリフレッシュできて、より子どもが可愛く感じられた」「これをきっかけに、娘が他の人への興味を持つようになったと思う」という

内容

十勝管内の乳幼児の親を対象に、子育ての環境や実情についてアンケートを実施し、研究分析を加え報告書にまとめる。

Web公開や十勝管内市町村、子育て支援団体などに配布予定。

内容

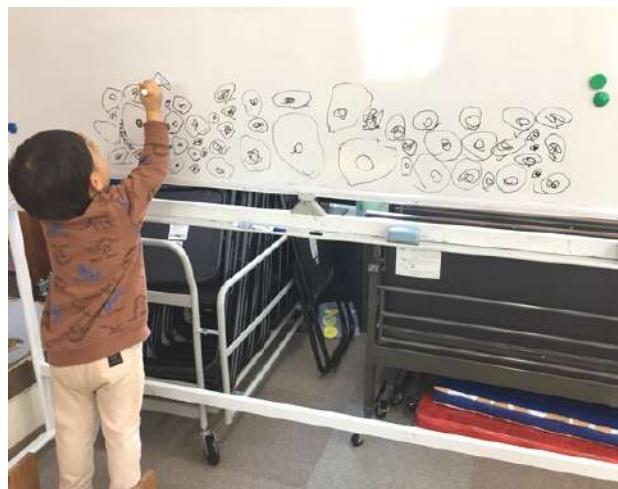
- ・日 時：にじっこ活動日
- ・託児代（利用者負担）：1時間300円
- ・人 数：1回1人
- ・実施回数：まずは1月1回
- ・アンケート実施

感想があった。預かる側を体験したメンバーからは、「預ける側から預かる立場になる経験ができてよかった」「親と離れた時間を子どもがどのように過ごすのか見ることもでき、勉強になった」「親と離れている間にも子どもが少しでも安心できる空間づくりを心がけたい」等、他者を思いやり新しい気づきを得る機会になっている。引き続き取り組みの成果について検証していく。

エピソード

(Kちゃん)

初めて長時間の託児を経験するYくん（2歳）。今日は託児だと知っていたため最初は「中に入らない」とごねていたが、メンバーに託して無事に出かけられたKちゃん。Yくんを預けている間に、絵本と雑貨のお店を巡ってリフレッシュできたとのこと。「にじっこに戻って来たら、私がいない間Yがどんな様子だったのか、みんなが話してくれて、息子の頑張りと仲間の温かい見守りに感謝でいっぱいになった。私は一人で充実した時間を過ごすことができ、みんなに時間をプレゼントしてもらった気持ちになった。幼稚園に行くまでの2ヶ月間、Yと過ごす時間を大切にしようと思えた。」と笑顔で感想を語ってくれた。



その他の取り組み：自主運営

みんなで協力し合い、それぞれが場づくりに関わることを目指し、プレイセンターの運営にはメンバーの親たちに関わってもらっている。スーパーバイザーの伴走支援のもと、“楽しく無理なく、今の自分にできることを”をモットーに活動している。

代表制

4ヶ月交代で、3～4人の“共同代表”が役割を担う。活動後に行っている「ふり返り」の進行をしたり、月に1度の代表会（スーパーバイザーも参加）でやってみたい企画を提案したり、にじっこ内で課題になっていること等を話し合っている。今年度は「森でハロウィン」「絵本タイム」「子育て講演会」「最近どう？の会（近況をシェアし合う会）」



等々の多彩なアイデアが出され、準備から実施まで担ってもらい、「達成感があった」「みんなで協力できたことが嬉しかった」等の感想があった。また、コロナ禍に必要となる様々な対応についても、代表メンバーからの意見を聴くことでスムーズな運営に活かすことができた。

みんなで託児

「学び合い」や「子育て相談会」「最近どう？の会（近況をシェアし合う会）」では、親が子どもと離れてゆっくり話せるように、2グループに分かれてお互いに託児を担い合っている。30分間という短い時間だが「この時だけは子どものことを気にせず、ゆっくり話ができてリフレッシュに

なる」「預かっている間、みんなで見守り合う体験になっている」と、“子育てはみんなで。お互いさま”を体験するための大切な活動になっている。助成金を活用し託児スタッフを手配することもできたが、あえてこのスタイルを選んで実施した。メンバーの声を聴きながら、今後も継続していきたい。

絵本・わらべうたタイム

絵本が好きなメンバーの提案で始まった取り組み。子どもたちが絵本と触れ合う時間として、お昼ご飯の前にメンバーが絵本を選んで読んでいる。子どもたちにもすっかり定着し、次年度はわらべうたもたくさん歌いたいと計画を立てている。



季節のテーブル（飾り棚）

子どもたちに季節を感じて欲しいと季節のテーブルを設置。インテリアが好きなメンバーが担当し、温かい空間づくりを担っている。



その他役割

「自分は役割を担えないで、申し訳ない」という声もあったが、目に見える分かりやすい役割以外にも、「活動に参加する」「自分の体験をメンバーに話す」「メンバーの話を聞く」「子どもたちを見守る」「会場の準備や片付け」「笑顔を見せる」等、それが大切な存在として場づくりに関わっていると考えている。

4.まとめ 事業を終えて～これから～

報告書を読んでいただき
ありがとうございます。

プレイセンターの特色の1つは「協働運営」（親による自主運営）。誰かが用意してくれた場所に“お客様”として行くのではなく、子どもと親のための場を作る“担い手”になる。この違いは大きい！

にじっこでは、多くのメンバーに無理なく「協働運営」を体験してもらうため、3人チームで4ヶ月間務める「代表」制を取っています。サポート役であるスーパーバイザーが伴走しながら、一緒に運営を考え実施していくのですが、“代表さん”を担ってくれたお母さんたちの個性や才能がキラリと光る瞬間をたくさん見てきました。役割を持ち仲間とつながることで、人は生き生きとしてくるのですね。

2018年11月に始まったにじっここの活動も4年目にに入りました。社会では「子育ての“負担”はできるだけ取り除いてあげる」という傾向が強まる中「お母さんたちに役割を担ってもらおう」というプレイセンターの取り組み。不安な気持ちを抱えたまま始まった活動でした。

しかし地域社会との関わりが希薄化し、役割を持つ機会がなくなっている現代だからこそ、プレイセンターの取り組みは、むしろ重要になっていると考えるようになりました。

コロナ禍も加わって、大小さまざまな課題が常時列をなしていますが、仲間のスーパーバイザーやメンバーとの対話を大切に、一步一步着実に歩ん

子育てのスタート地点で、お母さんが安定した気持ちでいられること、子育てって楽しい、と思えることは、生まれて来た子どもの一生を左右するくらい、とても大切なことです。私たちの社会は「孤独な育児」を常態化させてしまっていますが、人は本来、一人では子育てできないようにできています。女も男も、老いも若きも、子どものいる人もいない人も「みんなで子育て」。「子どもが大切にされること」。この価値観をにじっこで出会ったお母さんたちと一緒に、社会に少しずつ広めていきたいです。



スーパーバイザー
宮田真理子（まりちゃん）

できた日々だったなあと振り返ることができます。いつもたどり着くところは「大きくて温かい人の輪の中で、みんなで子育てできる地域づくり」です。私にできることはとても小さなことですが、そんな場づくりにこれからも関わっていきたいです。そして、小さな人と過ごす時間がとても幸せなので、これからも新しいお友だちとの出会いを楽しみにしています。



スーパーバイザー
嶋野奈津美（なっちゃん）

親も子も地域で育つ。少し前までは当たり前だったことが今では《親と子だけ》の子育てになり、子育てに正解を見つけようと必死になる親が多くなったように感じます。【皆違ってみんないい♡】私自身も救われ、大切にしている言の葉です。皆と違うことを少し不安に感じる時もあると思いますが、そんな時こそ自分の子育てに胸を張ってほしいと思います。そのためには子どもたちと一緒に遊ぶことが近道かな♪にじっこで過ごす

親や子どもたちの姿を見て、そう感じます。それは、私自身の子育ての中でも忘れかけていた大切なこと。気付かせてくれたにじっこ仲間たちに感謝しています。



サポートスタッフ
山本あゆみ（あゆみちゃん）

5. 參考資料

十勝毎日新聞2021年12月9日掲載

十勝毎日新聞2022年1月12日掲載

北海道新聞2021年
12月23日掲載

十勝毎日新聞
2022年
1月27日掲載

ラジオ出演

「にじいろひろば」ヨーナー

2021年12月24日 「西野博之氏講演会 告知」出演：SV 嶋野奈津美

2022年 2月25日 「プレイヤーセンターにじっこに参加してみての感想」 出演：メンバー親

PR活動

2021年8月 十勝子ども白書2021十勝まちづくり研究会編「コロナ禍の子どもの育ちと子育てをどう支えるか～リアルに『つながる』『あそぶ』『まなぶ』子育ち親育ち活動～」/寄稿 理事長今村江穂

2021年11月14日 帯広脳外科リハビリテーション講習会「帯広からダイバーシティを考える～誰もが暮らしやすい地域社会を目指して～」にてプレイセンターにじっこの活動を紹介/登壇者 理事長今村江穂

2022年3月3日 北海道保健福祉部子ども未来局子ども子育て支援課主催「子育て支援力アップセミナー」の事例発表にてブレイヤンターにじっここのPR動画紹介/発表者 SV嶋野奈津美

2022年3月4日 NHK総合テレビ（北海道道東エリア限定）
「#ナナメの居場所」にてプレイセンターにじっこ紹介



2022年3月23日「めでたいな会」

発行・編集

認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ぶれいおん・とかち

〒080-2470

北海道帯広市西20条南5丁目18-2

tel/fax 0155-36-0560(平日10-15時)

メール info@play-on-tokachi.net

LINE @playontokachi

HP <http://www.play-on-tokachi.net/>



2022年3月発行